

QAPHE

Institution for Accreditation and
Quality Assurance of
Professional Higher Education

認 定 証

学校法人 MGL 学園
高崎動物専門学校 殿

貴校は一般社団法人専門職高等教育質保証機構が
実施した専門学校第三者評価（動物分野）におい
て評価基準を満たしていることを証する

平成 30 年 2 月 9 日

一般社団法人 専門職高等教育質保証機構

代表理事 川 口 昭 彦



専門学校第三者評価 第三者評価報告書

学校法人 MGL 学園

高崎動物専門学校

平成30年2月

一般社団法人専門職高等教育質保証機構

目次

| | | |
|-----------|---------------------------------|----------|
| I | 評価結果 | 1 |
| II | 基準ごとの評価 | 2 |
| | 基準 1 目的・目標の設定および入学者選抜 | 2 |
| | 基準 2 専修学校設置基準および関係法令等の適合性 | 5 |
| | 基準 3 職業実践専門課程の認定要件の適合性 | 9 |
| | 基準 4 内部質保証 | 11 |
| | 基準 5 学修成果 | 13 |

【参考資料】

対象学校から提出された自己評価書から転載

- I 現況および特徴（学校名、所在地、学生数および教員数、特徴）
- II 学校の目的・目標
- III 自己評価の概要

I 評価結果

高崎動物専門学校は、専修学校設置基準、職業実践専門課程認定要件をはじめ関係法令に適合し、専門職高等教育質保証機構が定める評価基準を満たしています。

主な優れた点として、次のことが挙げられます。

- オープンキャンパスで、在校生が面接やプレゼンテーションを行う取り組みが、在学生の教育上の成果をあげています。
- 学生全員に配布したタブレット端末を活用した授業や、きめ細かな生徒指導が実施されています。
- ペット業界企業との連携による求められる人材の育成、専門分野における知識やスキルを取得する教育手法、学生に対するきめ細かなフォロー体制等が、高い就職率や資格取得、低い退学率、さらに就職後の活躍に繋がっています。
- 多数の卒業生がペット業関連企業で活躍するとともに、国際的なコンテストで複数の卒業生が優秀な成績をあげるなど、優れた学修成果をあげています。

主な改善を要する点として、次のことが挙げられます。

- 学生の要望・ニーズを的確に把握するために、組織的かつ定期的なアンケート調査等を実施する必要があります。特に、授業科目ごとのアンケート等によって、学生の意見を聴取し、その結果に基づいて、教材、カリキュラム、指導内容等の改善に資することが必要です。

上記のほか、更なる向上が期待される点として、次のことが挙げられます。

- 企業や卒業生の意見を組織的に聴取する仕組みを構築することが望まれます。

Ⅱ 基準ごとの評価

基準1 目的・目標の設定および入学者選抜

- 目的・目標が、適切かつ明確に定められており、その内容が職業実践的な教育に適したものとなっており、当該目的・目標が周知、公表されていること。
- 入学者受入方針が明確に定められ、それに沿った学生の受入が適切・公正に実施され、機能していること。
- 実入学者が、入学定員と比較して適正な数となっていること。

【評価結果】 基準1を満たしている。

評価結果の根拠・理由

1-1 学校の目的・目標において、学生が身につける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等が、適切かつ明確に定められているか。

高崎動物専門学校は、「愛玩動物産業の事業者を養成（育成）すること」を目的として、商業実務専門課程ペットビジネス学科を設置している。この学科には、具体的な事業（仕事）に分けた7コース〔動物看護コース・プロトリーマーコース・ビヘイビア（しつけ）インストラクターコース・ドッグトレーナーコース・ペットケアペットショップコース・トップブリーダー（飼育）コース・動物総合コース〕が設定されています。この具体的な事業（仕事）を想定したコース設定は、学生のみならず雇用者からも理解しやすくなっており、優れています。

学生が身につける資質・能力、養成しようとする人材像、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準等は、学則や学生生活の手引き、Web ページ等に明確に定められています。教育目標（養成する人材像）は、「MGL 学園教育目標」として、3 項目（利他の人、積極的な人、夢を持つ人）が掲げられています。

各コースごとの目的や到達目標は、明確に定められ、Web ページに記載されています。

1-2 学校の目的・目標が、構成員（教職員および学生）に周知され、社会に広く公表されているか。

学校の目的・目標は学則や Web ページに記載され、公表されています。また、各コ

一ス毎の目的・目標も Web ページに記載されています。「MGL 学園教育目標」が公表され、校内に掲示されています。Web ページが充実しており、学校情報の有効な発信手段として優れています。

1-3 学校の目的・目標に沿って、求める学生像や入学者選抜の基本方針等が記載された入学者受入方針が明確に定められ、公表、周知されているか。

学校の目的・目標に沿って、求める学生像や入学者選抜の基本方針等が記載された入学者受入方針が、Web ページや AO 入学要綱、学生募集要項に明確に定められ、進学ガイダンスやオープンキャンパス等において広報職員が説明を行い、公表、周知されています。AO 入試以外の入学試験については、オープンキャンパスで周知されています。

オープンキャンパスでは1年生と2年生がペアを組み、教職員の監督のもと、来校した学生の面接を行うことで、来校生が学生の立場の意見を聞けるだけでなく、在校生のプレゼンテーション能力が向上するなどの教育上の成果をあげています。

1-4 入学者受入方針に沿った学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が、適切な実施体制により公正に実施されているか。

入学者選抜は、指定校推薦入学、学校推薦入学、AO 入学および一般入学によって実施されています。入学選抜については、学則に定める入学試験として、書類選考と面接試験を実施しています。しかし、オープンキャンパス参加時に事前面接を受けた者は、原則として入学試験は書類審査のみとし、校長が入学を許可しています。AO 入試については、群馬県専修学校各種学校協会の規定に基づいて行われています。

1-5 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、または大幅に下回る状況になっていないか。その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

実入学者数については、入学希望者の増加により定員増が繰り返されました。近年は全国的に動物系の専門学校への入学者数が減少しており、入学定員を下回るようになりましたが、定員充足率 90%を超える状態（過去 5 年間平均）を維持しています。以上のことから、定員数は適正であり、実入学者数が入学定員と比較して適正と判断します。

以上の内容を総合して、「**基準 1 を満たしている。**」と判断します。

【優れた点】

- 定員充足率 90%を超える状態（過去 5 年間平均）を維持しています。定員数も適切であり、実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっています。
- オープンキャンパスで、在校生が面接やプレゼンテーションを行う取り組みが、在学生に対する教育上の成果をあげています。

【改善を要する点】**【更なる向上が期待される点】**

基準2 専修学校設置基準および関係法令等の適合性

- 専修学校設置基準および関係法令等の定める、教員資格、教員数、授業時数、校地校舎の面積、施設等に適合していること。
- 目的・目標に照らして、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準、授与される職業資格との関係において適切であり、当該職業分野の期待に応えるものになっていること。
- 教育組織および教育課程に対応した施設・設備ならびに図書、教育上必要な資料が整備され、有効に活用されているか。
- 学習を進める上での履修指導および学習相談・助言が適切に行われていること。
- 目的・目標を達成するために必要な管理運営のための組織および事務組織が整備され、機能していること。

【評価結果】 基準2を満たしている。

評価結果の根拠・理由

2-1 教員組織および職員組織の編制のための基本方針を有しており、それに基づいた教職員の採用および組織編制が行われているか。

運営組織や意思決定機能は、学則・就業規則・教職員組織体制表・教育課程編成委員会の位置付けに関する規則等において明文化され、有効に機能しています。人事に関する規定等は就業規則に明文化されています。教務・財務等の組織整備など意思決定システムは、寄附行為・学則・教職員組織体制表に記述・整備されています。

教員組織および職員組織の編制のための基本方針については就業規則に定められています。教員の役割分担、責任体制も明確にされています。教員の採用に関しては、関連分野における業界等との連携において、優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われています。

2-2 教育課程を遂行するために必要な教員が確保されているか。また、専門分野に関し教育上の指導能力があると認められる専任教員が、関係法令が定める数以上置かれているか。

関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされており、教育課程を遂行するために必要な教員が確保されています。専門分野に関し教育上の指導能力があ

ると認められる専任教員が、関係法令が定める数以上置かれています。

2-3 授業科目（課目）が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。教育課程の編成や教育内容が、学生の多様なニーズ、関係業界の発展動向、社会からの要請等を反映したものになっているか。

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が、教育課程編成委員会規則により策定されています。教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は、取得目標とする資格や学則附則1により明確にされています。関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、教育課程編成委員会等でカリキュラムの作成・見直し等が行われています。

社会の動物愛護への関心が高まる中、平成29年度は、学生の動物愛護の精神の滋養のため、群馬県動物愛護センターとの連携により、センターの収容動物にトリミングやしつけの実習・演習を行うことにより、里親に保護されやすくしていく取り組みを開始しました。この活動で、収容動物の殺処分が減少し、学生自身の持っている技術や知識・人間性が社会の役に立つことを実感することで、教育目標に叶った人材の輩出が期待されます。

以上のことから、教育課程の編成や教育内容は、学生の多様なニーズ、関係業界の発展動向、社会からの要請等を反映したものになっていると判断します。授業内容がより現場に近い内容に適時作成、編成されています。

2-4 学生の履修に配慮した適切な時間割の設定等がなされているか。ひとつの授業科目（課目）について同時に授業を受ける学生数が、授業の方法および施設、設備その他の教育上の諸条件を考慮して、教育効果を十分にあげられるような適当な人数となっているか。

各コースにおいて、適切な時間割が設定され、単位取得数も適切と判断します。40人を越える授業がありますが、担当する教員・講師の現状と、教育効果のバランスから考え、このような授業については、一つの授業に複数の教員を配置するなど、一人の教員あたりの学生数なるべく40人以下になるよう対応しています。

2-5 学生の履修指導および学習相談・助言が、学生の多様性（履修歴や実務経験の有無等）を踏まえて適切に行われているか。

学年別・コース別に担任が配置され、学生一人ひとりに相談・助言ができる体制となっています。各コースの専門分野に精通した教員が、担任として配置されており、学習内容の相談にも対応できる環境となっています。入学時に、学生全員にタブレッ

ト端末が配布されており、各学生に専用の G メールアカウントが発行されています。この専用アカウントを通じて、随時メールで対応することも可能となっています。

以上のように、学生相談に関する体制が整備されていると判断します。

2-6 教育課程に対応した施設・設備（図書、視聴覚資料その他の教育上必要な資料を含む）が整備され、有効に活用されているか。

動物の技術を学ぶ上で必要な学校飼育動物や MGL 学園附属ペットショップ実習施設や MGL 学園附属動物病院実習施設、トリミング室、室内ドッグトレーニング室、ネイチャーアクアリウム施設、パソコン室など豊富な実習施設の他、講義室や学生ホール、学生ロッカー室も完備されており、すべて有効活用されている。

タブレットを入学時に一人一人に配布して、教科書としても視聴覚資料としても活用しています。

2-7 学生支援の一環として、学生がその能力および適性、志望に応じて、主体的に進路を選択できるように、必要な情報の収集・管理・提供、ガイダンス、指導、助言が適切に行われているか。

全国ペット協会主催のペット業界合同就職説明会への参加、MGL 学園主催のペット関連企業合同就職説明会や個別企業説明会を本校で開催するなど、学生が主体的に進路を選択できるように、必要な情報の収集・管理・提供、ガイダンス等が適切に行われています。

進路相談においても担任が中心となって、面談や配布しているタブレットから G メールを活用して随時相談や助言を行っています。就職専門の職員による面接練習などの取り組みも行っています。さらに、教職員全体で就職について状況の共有や学生へのサポートを行っています。

2-8 特別な支援が必要と考えられる者への学習支援、生活支援等の実施体制が整備されているか。

通学サポート制度、1 人暮らしサポート制度など自宅からの通学が困難な学生に対し、本校独自の経済的な支援制度があります。独自の特待生制度もあり、特別な支援が必要な学生達への体制が整備されています。また、専門実践教育訓練の認定を受けているため、社会人には、Web ページやパンフレット、オープンキャンパスなどで教育訓練給付制度の周知を図っています。

障害がある学生の支援設備、学生の健康管理が実施されています。

以上の内容を総合して、「**基準 2 を満たしている。**」と判断します。

【優れた点】

- 授業内容がより現場に近い内容に適時作成，編成されています。
- 学生全員に配布したタブレット端末を活用した授業や、きめ細かな生徒指導が実施されています。

【改善を要する点】

【更なる向上が期待される点】

基準3 職業実践専門課程の認定要件の適合性

- 職業実践専門課程の各認定要件（教育課程編成委員会、企業等と連携した実習・演習、教育活動等に関する情報公開）に適合していること。

【評価結果】 基準3を満たしている。

評価結果の根拠・理由

3-1 教育課程編成委員会等の委員構成が適切であり、委員会が適宜開催され、その結果が教育課程の内容に反映されているか。（なお、教育課程の編成内容に関しては、基本的な観点 2-2～2-5 において評価する。）

教育課程編成委員会は職業実践専門課程の認定要件で定められている委員構成に則って構成されており、委員会は年 2 回以上開催されています。

教育課程編成委員会での議論から、ビジネスマナーの授業がビジネスコミュニケーションと授業名を改名して、よりコミュニケーションを重視したカリキュラムに変更されました。また、スピードトリミングの流行に伴いスピードトリミングのカリキュラムと使用する道具が取り入れられました。更に、使役犬だけでなく、家庭犬のトレーニングの需要に伴い家庭犬のためのトレーニングカリキュラムが加えられました。

以上のことから、教育課程編成委員会の構成は適切であり、委員会の意見は、カリキュラム等の改善に反映されていると判断します。

3-2 企業等と連携した実習・演習等が適切に実施され、教育課程の中で有効に機能しているか。

Web ページでも公開している「職業実践専門課程の基本情報」の中の「主な実習・演習等」の「実習・演習等における企業との連携に関する基本方針」で公開しているとおり、関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられています。このように、現場に求められる知識やスキルが把握されており、企業連携が適切に行われ、実践的な教育が行われています。

3-3 教育活動等に関する情報が、ホームページ等により適切に公表されているか。

Web ページやパンフレットを通して教育活動等に関する情報が公開され、Web ページなどは随時、迅速に更新されています。また、世界で活躍する卒業生や資格取得実績などの情報も公表されています。

以上の内容を総合して、「**基準 3**を満たしている。」と判断します。

【優れた点】

【改善を要する点】

【更なる向上が期待される点】

基準4 内部質保証

- 教育の状況等について、自己点検・評価および企業と連携した学校関係者評価が定期的実施され、それらの結果に基づいて質の改善・向上を図るための体制が整備され、取組が行われており、機能していること。
- 教職員等に対する研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。

【評価結果】 基準4を満たしている。

評価結果の根拠・理由

4-1 学生受入の状況、教育の状況および成果や効果について、自己点検・評価および学校関係者評価が適切かつ組織的に行われているか。その際、学生からの意見、学外関係者の意見や専門職域に係わる社会のニーズが、自己点検・評価および学校関係者評価に適切な形で反映されているか。

自己点検・評価および学校関係者評価は毎年実施されています。学生、学校関係者の意見や業界からの要望なども事業計画に反映され、次年度の目標となり、達成に向けて取り組んでいます。専門職域にかかわる社会のニーズは、教育課程編成委員会の業界関係者から指摘されています。

財務については、Web ページに資料が掲載されており、会計報告は監事より承認されています。

4-2 自己点検・評価および学校関係者評価の結果が学校内および社会に対して広く公開されているか。

自己点検・評価及び学校関係者評価は毎年実施され、評価結果は、Web ページで公開されています。

4-3 自己点検・評価および学校関係者評価の結果がフィードバックされ、教育の質の改善・向上のための取組が組織的に行われ、教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

自己点検・評価および学校関係者評価を実施し、課題に対する明確な改善方針を立てています。問題点は、年度ごとに事業計画に目標として掲げています。

以上のことから、教育の質の改善・向上のための取り組みが組織的に行われ、教育

目標の達成に向けて取り組んでいると判断します。

4-4 企業等と連携した組織的な教員研修（ファカルティ・ディベロップメント）および職員研修（スタッフ・ディベロップメント）が適切に実施され、それらが教育の質の改善・向上に有効に機能しているか。

教員研修計画により、連携企業への教育実習および海外研修等が実施され、授業に新しい情報を加え知識・スキルの向上に資しています。また、ペット業界の第一人者や世界で活躍をしているトップトリマー、動物の遺伝病や繁殖学の世界的権威の講師を招き、講習会を開いて技術・知識の向上に役立てています。

事務スタッフのマナーアップ向上を目的として、日本能率協会の研修参加のほか専門の講師を招いてセミナーも開催し、職員一人ひとりのスキル向上を図っています。

以上の内容を総合して、「**基準 4 を満たしている。**」と判断します。

【優れた点】

【改善を要する点】

【更なる向上が期待される点】

基準5 学修成果

- 目的・目標において意図している、学生が身につける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等に照らして、学修成果があがっていること。
- 当該職業分野の期待に応える職業実践的な学修成果があがっていること。

【評価結果】 基準5を満たしている。

評価結果の根拠・理由

5-1 単位修得、修了状況、資格取得の状況等から判断して、意図している学修成果があがっているか。

タブレットで写真や動画を取り、プロ（教員）の技術と自身の技術を比較することで資格取得率が向上しています。トリミングやドッグトレーニングなど技術系の資格試験は全員合格しています。動物看護師統一資格試験は毎年 90%以上の合格率です。

コンペティションでは、2017年2月に行われた（一般社団法人）日本動物専門学校協会が主催する全国トリミングコンテストにおいて、「アドバンスBクラス」で最優秀技術賞を受賞しました。同コンテストでは、5年間、1人以上の受賞者を輩出しています。

以上のことから、意図している学修成果があがっていると判断します。

5-2 授業評価等、学生からの意見聴取の結果から判断して、意図している学修成果があがっているか。

卒業直前に学生に受講講座の効果や受講した講座の教材、カリキュラム、指導内容について、総合的に評価するアンケートは実施されています。しかしながら、このアンケートは、教育訓練給付制度のアンケートの一部として実施されたものであり、本観点の学修成果を判断するための資料として十分とは言えません。科目ごとの授業評価あるいは満足度調査を定期的に行うことが必要です。

5-3 修了後の進路の状況等の実績や成果から判断して、意図している学修成果があがっているか。

職業実践専門課程の基本情報によると、就職率 100%、卒業生に占める就職者の割合 97%となっています。ほとんどの学生が当該専門分野に就職し、その中でも大手企業や待遇の良い企業に就職している学生が多く、入社後にペット販売実績で新人賞を

受賞、入社後1年半で副店長に昇進、入社後2年目で店長に昇進した卒業生もいます。

また、トリミング国際大会については、ワールドグルーミングチームチャンピオンシップ（グルーミングのオリンピックと言われている）に日本代表として出場しベスト8を獲得した卒業生がいます。トリミング国際大会「Groom Expo West 2017」（2017年、アメリカで開催）において、プードルのオープンクラス、ワイヤーコーテッドのオープンクラスの2部門で優勝、トリミング国際大会「Groomania 2017」（2017年、ベルギーで開催）において、ワイヤーコーテッドオープンクラスで1位を獲得した卒業生もいます。このように、国際的にも高く評価されている卒業生を輩出されています。

以上より、意図している学修成果があがっており、優れた成果をあげていると判断されます。

5-4 修了生や就職先等の関係者からの意見聴取の結果から判断して、意図している学修成果があがっているか。

就職面接や企業説明会等の際、企業の採用担当者がMGL学園の卒業生を高く評価しています。

卒業生が来校するたびに現状を聴取しています。ペット業界の大手企業や待遇の良い企業に就職している学生が多く、要職に就いている者も多数みられます。卒業生の活躍が企業にも評価されており、「個別で企業説明会をさせて欲しい」「校内就職説明会に呼んで欲しい」等という企業からの要請も多数受けています。

以上のことから、意図した学修成果があがっていると判断されます。

以上の内容を総合して、「**基準5を満たしている。**」と判断します。

【優れた点】

- ペット業界企業との連携による求められる人材の育成、専門分野における知識やスキルを取得する教育手法、学生に対するきめ細かなフォロー体制等が、高い就職率や資格取得、低い退学率、さらに就職後の活躍に繋がっています。
- 多数の卒業生がペット業関連企業で活躍するとともに、国際的なコンテストで複数の卒業生が優秀な成績をあげるなど、優れた学修成果があがっています。

【改善を要する点】

- 学生の要望・ニーズを的確に把握するために、組織的かつ定期的なアンケート調査等を実施する必要があります。特に、授業科目ごとのアンケート等によって、学生の意見を聴取し、その結果に基づいて、教材、カリキュラム、指導内容等の

改善に資することが必要です。

【更なる向上が期待される点】

- 企業や卒業生の意見を組織的に聴取する仕組みを構築することが望まれます。

【参考資料】

参考資料として対象学校から提出された自己評価書から、下記の項目について原則として原文のまま掲載します。

I 現況および特徴（学校名、所在地、学生数および教員数、特徴）

■学校名

学校法人 MGL 学園 高崎動物専門学校

■所在地

〒370-0044 群馬県高崎市岩押町 5-4

■学生数および教員数（評価実施年度 5 月 1 日現在）

ペットビジネス学科（動物看護コース、プロトリマーコース、ドッグトレーナーコース、ビヘイビア(しつけ)インストラクターコース、ペットケアペットショップコース、トップブリーダー(飼育)コース、動物総合コース) 学生数 264 人、常勤教員数 8 人、非常勤教員数 15 人

■特徴

本校の特徴は、第一に、愛玩動物産業（ペット業界）の特に群馬県内のペット業界の要望に応じて、群馬県初の動物専門学校として設立されたことである。初代理事長が学校法人設立以前よりペットショップを営んでおり、平成に入る頃からペットブームにより室内犬を飼育する世帯が増え、これに伴いトリミング（犬の美容）の需要が急激に増加した。初代理事長のペットショップもトリマー（犬の美容師）が慢性的に不足し、常に募集をしていたが、当時は群馬県内に動物の専門学校が無く、全国でも校数が少なかったため、群馬県でトリマーを雇うことは至難の業だった。他のペットショップも同様で、そんなペット業界のトリマー不足を解消しようと、本校は、平成 6 年 4 月にトリマーを養成するスクールとして開校した。以降、さらにペットブームは進み、トリマーだけでなく、動物看護師やドッグトレーナー等の養成が必要となり、この需要に応えるため、平成 15 年 3 月に「愛玩動物産業の事業者を養成（育成）することを目的」として、専修学校専門課程を設置した。以来、時代によって変化する愛玩動物産業（ペット業界）の需要に応えるため、コースやカリキュラムを編成・改編し、平成 26 年 3 月に文部科学省より職業実践専門課程の認定、さらに平成 27 年 8 月に厚生労働省より専門実践教育訓練の認定を受け、現在に至る。

第二に、本校の基本精神として「共存共栄」を掲げていることである。なぜなら、前

述のようにペット業界の要望に応じて設立された学校なので、ペット業界の発展と共に学生の将来は勿論、学校や教職員の将来もあると考えるからである。したがって、ペット業界の発展を本校の使命にしている。この使命を遂行するために M・G・L の 3 つの行動指針を掲げた。①「M」マナー・礼儀正しさ②「G」グリット・やり抜く力③「L」リーダーシップ。以上のように、行動指針の M・G・L の 3 つが学校法人名になっているため、学生や保護者・高校の先生や就職先企業等に広く周知しやすくなっている。

第三に、ペット業界の代表団体である全国ペット協会と連携して、ペット業界が求める人材を育成しようとしていることである。全国ペット協会が専門学校に求める教育は、専門分野の知識・技術の習得は勿論、人間性の向上が重要で、次の 4 項目が求められている。①コミュニケーション能力②協調性③積極的な姿勢④熱意・情熱。この 4 項目を習得させるため、全国ペット協会と連携した教育課程の編成や、オープンキャンパスや文化祭等の学校行事を学生主体に運営し、学校外の方々を接客するという経験をすることで、4 項目習得の成果を挙げている。本校はこの 4 項目習得をさらに進め、経営者の視点を持って行動できる人材の育成を目指している。学校の目的が「技術者を育成」ではなく「事業者を育成」とあるのはこのためで、動物分野の専門学校としては珍しいが、商業実務分野で設置認可されるに至った。

その他の本校の特徴としては、附属のペットショップや附属の動物病院実習施設を持ち、実践的な実習を行っていること。卒業生のペット業界へ就職する割合が高いこと。卒業生でこの分野の有名人を輩出していること。その卒業生が毎年のように海外の大会で優勝または入賞し、その度に後輩のために本校で凱旋記念講演をしてくれるので、世界のトップの技術及び人間性に学生が直に触れることができ、学生のモチベーションアップや目標とすることができる等である。ペットブームだから動物の専門学校を設立すれば学生が増えるだろうという動機で設立したのと違い、ペットブームだからペット業界が人材不足で、これを解消しペット業界をさらに発展させるために設立した学校というのが主な特徴であり、沿革や目的・理念を通して一貫したものである。

II 学校の目的・目標

本校は、愛玩動物産業の事業者を養成（育成）することを目的とする。この目的を実現するため、MGL 学園の基本精神「共存共栄」や M・G・L の行動指針等の理念に基づき、教育活動を積極的に展開・推進している。その上で、「学生の可能性(若者の可能性は無限)を信じる」という教育方針のもと、本校が養成すべき人物像として、次の 3 点を掲げている。

①利他の人→動物が好きなのは勿論、それ以上に人間が好きの人。※人との会話（コミュニケーション）がしっかりできる。相手の質問に対して目をみて的確に返答できる。笑顔で人と会話ができる。

②積極的な人→職場では積極的な姿勢が求められるので、積極的に行動し質問する事で技術や知識の習得ができるのは勿論、職場での良好な人間関係の構築にも役立つ。

③夢を持つ人→目標を持つことで困難な状況に陥った時に乗り越える強さや目標に近づく過程での達成感等でのやりがいを見出すことができる。

これはペット業界の代表団体である全国ペット協会が、ペット業界の求める人材として挙げている4項目の習得を目標にしたもので、本校の教育目標となっている。

さらに、「事業者を養成（育成）」することを目的としているので、経営者の視点に立って行動ができるような人物像を目標に教育している。そのため、ビジネス系の科目の充実は勿論、経営者である理事長自らがペットビジネスの授業を担当し、学生に直接、経営者の考えを伝えている。理事長の授業だけでなく、普段学生が接する教職員から受ける影響も大きいので、教職員が生徒の模範となって「考える」ことを習慣づけ、率先してMGLの行動指針を運用できるように、哲学者小川仁志氏の推奨する哲学的思考の3つのポイントを掲げた。

哲学的思考のすすめ、①「疑う」②「削ぎ落とす」③「磨き上げる」

これをより実践的に運用できるようにするため、新指針を作った。

①「ペット業界の発展を誓う」※ペット業界の発展があって自分の生活があることを自覚する。

②「理事長を疑う」※指示を受けるとき→本当に正しいかどうか考える。

※自分で判断するとき→理事長だったらどうするか考える。

③「仲間を裏切らない」※チームで動いていることを忘れない。

このように、教職員自らが学生の模範となって成長し、専門的な技術や知識は勿論、学生が人間的に成長できるようサポートしていく体制を整えている。

専門分野の技術・知識については、各コースが目標とする資格を設定し、その資格の合格率は全ての資格で90%以上をクリアしている。特に、動物看護師の統一認定試験に於いては、合格率は勿論の事、群馬県内での合格者のMGL学園が占める割合や、その教育力が特に優れていると、読売新聞から取材され、記事になったほどである。また、企業と連携した実習・演習を活用し、ペット関連企業やペット業界が求める人材の育成を目標にしている。

このような教育目標を達成していくと、どのような卒業生が輩出されるのか、一例を紹介する。平成29年2月にロサンゼルスのパサデナで行われたグルーミングの国際大会で、本校の卒業生が2部門制覇の上、優勝した。これは日本人初の快挙であり、海外の雑誌にも特集されるほどの大きな反響があった。

その他、上記の教育目標実現のため、毎年、自己点検・評価や学校関係者評価に基づいて事業計画を策定し、目標達成に向けて取り組んでいる。平成 28 年度に於いて特に成果をあげたものは、全国ペット協会主催のペット業界合同就職説明会への参加や、MGL 学園で主催したペット関連企業合同就職説明会を本校で開催したことで、ペット業界の大手企業や地元ペット関連企業への就職が大幅に強化され、待遇の良い企業へ学生を大勢送り出すことができた。したがって、就職率の向上だけでなく、就職する学生の待遇向上にも大きな成果を上げることができた。

また、平成 29 年度は、学生の動物愛護の精神の滋養のため、群馬県動物愛護センターとの連携により、動物愛護センターで実習・演習をさせていただくことになった。具体的には、学生が収容動物にトリミングやしつけを行うことにより、里親に保護されやすくしていく取り組みである。その結果として収容動物の殺処分が減少すれば、学生自身の持っている技術や知識・人間性が社会の役に立つことが実感できる。すなわち「利他の人」として自信を持って社会にはばたくことができるので、教育目標に叶った人材の輩出が期待できる。

他には、学校教育法の一部改正により、専門職大学という新しい学校種の枠組みができるので、本校の目的の実現に合致するか研究・検討すること。また、第三者評価をしていただく機関を選定できたので、これに取り組むことにより、本校の目的をより社会に望まれる形で実現できるよう推進していきたい。

Ⅲ 自己評価の概要

■基準 1 目的・目標の設定および入学者選抜について

本校は、「愛玩動物産業の事業者を養成(育成)すること」を目的とし、ペットビジネス学科を設置している。その中で、動物看護コース・プロトリーマーコース・ビヘイビア(しつけ)インストラクターコース・ドッグトレーナーコース・ペットケアペットショップコース・トップブリーダー(飼育)コース・動物総合コースという愛玩動物産業(ペット業界)の具体的な事業(仕事)に分けたコース設定をしているので、どのような人材を育成する学校か明確である。また、このコース設定は、ペット業界が求める人材と合致しているので、職業実践的な教育に適したものとなっている。

さらに「共存共栄」という基本精神は勿論、これを実現するためのMGLという行動指針は学校法人名にもなっているので、広く周知されている。

入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)については、入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)をAO入学要綱に、出願資格を学生募集要項に明確に記載して広く募集活動を行っているので、入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に

沿った学生の受入が適切に実施されている。

実入学者数については、入学希望者の増加により定員増を繰り返してきたが、近年は少子化の影響もあり、全国的に動物系の専門学校への入学者数が減少しており、本校も入学定員を下回るようになった。しかし、定員を下回るといっても定員充足率は90%を超え、しかも入学者数は回復傾向にあるので、定員の数も適正であり、実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっている。群馬県という人口の少ない県の学校ながら、動物の専門学校では日本有数の入学者数を誇る、ペット業界への就職を希望する多くの学生に支持された、人気の学校である。

■基準2 専修学校設置基準および関係法令等の適合性について

本校は元大学として使用されていた施設設備なので、専修学校設置基準および関連書法令等が定める要件をはるかに上回る教員数・校地校舎の面積・施設等を有しており、当然、動物看護師統一認定機構の基準にも適合している。さらに、動物の技術を学ぶ上で必要な学校飼育動物やMGL学園附属ペットショップ実習施設やMGL学園附属動物病院実習施設、トリミング室、室内ドッグトレーニング室、ネイチャーアクアリウム施設、パソコン室など豊富な実習施設の他、講義室や学生ホール、学生ロッカー室も完備されており、有効活用されている。その上で、本校の教員は、本校の出身者が多いため、MGL学園の教育理念や教育方針を良く理解をしており、なおかつ社会の現場で活躍してきたプロであることから、技術・知識を学生達に身につけさせるだけではなく、ペット業界で活躍していくための人物像などについても指導していくことができる。また非常勤の講師もそれぞれの分野で活躍する一流の講師であり、例えば独協医科大学名誉教授の篠田教授が動物看護の授業を担当するなど、学生は一流の講師たちからより専門的な教育が受けられるようになっている。さらに通常の授業以外に特別授業として、2016年9月にビクター・ロサード氏をMGL学園に招聘して講演をしていただいた。ビクター氏は、グルーマーのアメリカ代表である「グルームチームUSA」のメンバーであり、世界大会でナンバーワンである「BIS」を何回も受賞した、世界を代表するグルーマーである。ビクター氏に限らず、毎年何回もペット業界の一流の講師をお呼びして特別授業ができるのも、MGL学園の国内外を問わずペット業界との深い人脈があるからである。それは、MGL学園の理事長が、ペット業界の代表団体である全国ペット協会の理事をしており、ペット業界との連携が良く図れているからであり、今後もMGL学園の強みを活かしたカリキュラムの編成を行いたい。

学生の指導に関しては、全国ペット協会主催のペット業界合同就職説明会への参加や、校内開催のペット関連企業合同就職説明会を開催するなど、学生がペット業界の大手企業や待遇の良い企業に就職しやすくなるよう取り組んでいる。また大手企業か

ら要請を受けて個別企業説明会を開催することもある。進路相談においても担任が中心となって、面談であったり、専門学校では珍しいが学生全員にタブレット端末を配布しているため、Gメールを活用して随時相談や助言を行っているほか、就職専門の職員による面接練習などの取り組みも行っている。さらに、担任、就職担当の職員の垣根を越えて、教職員全体で就職について状況の共有や学生へのサポートもおこなっている。よって、学習を進める上での履修指導等が適切に行われている。

■基準3 職業実践専門課程の認定要件の適合性について

教育課程編成委員会は職業実践専門課程の認定要件で定められている委員構成に則って構成されており、委員会は年2回以上開催され、その内容が適切に教育に反映されている。教育課程編成委員会を毎年開催していることにより、関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携による、カリキュラムの作成・見直し等を行うことができた。学生も、「実際に学校で教えている先生だけでなく、卒業生や外部の方から見た客観的な意見が取り入れられる委員構成になっていると思う。」と評価してくれている。

企業と連携した実習・演習は、エル動物病院・新田動物病院ペットスクエア・DOG&CAT Waltz・高崎ペットセンター・群馬ドッグセンター・佐々木法律事務所・アニー英会話教室・ようざん（ヒューマンアニマルボンド）等、多くの企業と連携して実践的な教育を展開している。教育課程の中で有効に機能しているため、企業に求められる人材が育成できている。その証拠に、MGL学園で就職説明会を行うと企業に連絡すると、多数応募があるので、企業が本校の学生を求めていることがわかる。学生も「(企業と連携した実習・演習は、教育課程の中で有効に)機能している。企業の方が講習してくださるので、就職関係が特に役に立つ。」と評価している。

教育活動に関する情報公開は、パンフレットはもちろんのこと、ホームページに適切に公開されており、世界で活躍する卒業生や資格取得実績なども公表されている。学生も「公表されている。見やすく公表されていていいと思う。」と評価している。

■基準4 内部質保証について

自己点検・評価及び学校関係者評価は毎年適切に実施され、学校関係者の意見や業界からの要望なども反映されている。学生受入状況、教育状況など、ホームページに詳しく記載されている。

自己点検・評価及び学校関係者評価は毎年開催され、評価結果を誰もが見るようにホームページで適切に公開されている。

自己評価・学校関係者評価では常に改善にむけて課題をみつけ、改善方針を定めて、それを事業計画に反映して毎年の改善目標とし、実行している。

企業と連携した教職員研修は、本校教職員研修計画書のとおり、企業研修や海外研修を毎年行っている。その他、ペット業界の第一人者や世界で活躍をしているトップトリマー、また動物の遺伝病や繁殖学の世界的権威の先生をお招きして講習会を開いて頂き、技術・知識の向上に役立っている。また、専門の講師を招いて教職員のマナーアップ向上を目的としたセミナーも開催し、さらに、日本能率協会の研修や教職員ミーティングでの理事長のスピーチ等も行われており、教職員 1 人 1 人のスキル向上を図っている。

■基準 5 学修成果について

ペット業界との産学連携の強化により、就職率の向上が図られ、さらに待遇の良い企業に多くの学生を送り出すことができている。また、タブレット学習を取り入れ、写真や動画を撮ることにより、プロ（教員）の技術と自身の技術を比較することができるため効率的に技術を身につけることができ、トリミングやドッグトレーニングなど技術を要する資格試験は、全員合格するなどの成果を挙げることができている。また動物看護師統一認定試験は毎年 90%以上の合格率があり、その実績が特に優れていると評価され、読売新聞からも取材を受けたほどである。また担任制や G メールを活用しての学生 1 人 1 人への決め細やかなフォロー体制もあり、退学率も数パーセントと低く、入学したほとんどの学生が動物のプロとして巣立っていつている。

学生の満足度について、受講講座の効果や受講した講座の教材、カリキュラム、指導内容等、総合的に評価するアンケートを卒業前に実施している。このアンケートの結果からは、学生の満足度は高く、おおむね意図している学修成果があげられていると評価できる。

卒業生の活躍という観点からは、学修成果があがっていると大いに実感できる。ほとんどの学生が当該専門分野であるペット業界に就職している。その中でも大手企業や待遇の良い企業に就職している学生が多く、入社後にペット販売実績で新人賞を受賞したり、入社後 1 年半で副店長に昇進、入社後 2 年目で店長に昇進、世界で活躍する卒業生はトリミング国際大会でベストインショー（優勝）の受賞や、グルーミングのオリンピックと言われる「ワールドグルーミングチームチャンピオンシップ」に日本代表として出場しベスト 8 を獲得するなど、多くの卒業生が活躍している。学生も「就職面接の際や、企業説明会の時も、MGL 学園の卒業生のことをほめて下さる方がいらっしまったため、意図する学修成果があがっていると思う。」と評価している。

本校は学生の満足度が高いためか、卒業生が毎日と言ってよいほど学校に遊びに来るので、卒業生が来校するたびに現状を聴取している。大手企業や待遇の良い企業に就職している学生が多いため、好待遇で就職して良かったという話や、昇進して要職に就いたなどうれしい話をよく聞く。また卒業生の活躍が企業にも評価され、個別で

企業説明会をさせて欲しいという声や校内就職説明会に呼んで欲しいという企業からの要請も多数うけている。このようなことから学校の目的に合った、当該職業分野の期待に応える職業実践的な学修効果があがっていると考えられる。